



# しんぺい通信

Vol.12

発行責任者  
川上 しんぺい  
〒811-0321  
福岡市東区西戸崎6-2-7  
電話:092-603-6815  
FAX:092-603-6825

## 与党とはなにか！自民党の役割

2月議会において自由民主党福岡市議団などの反対により、福岡空港未来基金条例案が否決されました。高島市政ではじめての議案否決です。高島市長を支える立場の自民党がこうした対応を取った背景には、福岡空港の民間委託をめぐる政策の相違があります。

自由民主党福岡市議団は平成30年に予定される民間委託後に、市が空港運営会社に出資することを求めてきましたが、当局はかたくなに出資を拒んでいます。民間委託後の運営会社は現在の福岡空港ビルディング株式会社が担っているターミナルビルや貨物の取り扱いに加えて、滑走路の維持管理や着陸料等「空港使用料」の徴収なども請け負うこととなります。

空港を利用する市民にとって直接的に利害関係があるだけに、もし経営が利益重視に偏ってしまった場合などに不利益が及ぶことを私たちは危惧しています。だからこそ、市は少しでも株式を取得し、しっかりと経営を監視すべきだというのが、自由民主党福岡市議団の考えです。

## 福岡市の地域間格差をどう解消するか

**Q** 志賀島地区の活性化を問うと、必ずその歴史、自然環境を生かした振興との答えが返ってきます。しかし、なかなかうまくいかない。それは福岡市のビジョンがないからです。天神やJR博多駅など都心部の機能強化だけでなく、市街地調整区域にも展望と行政の投資が必要です。福岡市全体では人口は154万人を超えました。しかし、志賀島地区は人口の減少が続いています。こうした市内の地域間格差をどうすれば小さくできるのか。非常に重要な問題です。高島市長の見解はどうか。

**A** 福岡市は全国で5番目の人口を誇る大都市でありながら、身近に豊かな自然を抱えています。その調和が大きな魅力となっており、住みやすい都市として世界からも評価されているところです。そこで重要な役割を担っているのが志賀島をはじめとした農山漁村地域です。福岡市の魅力をさらに高めるためには、都心部の機能強化と並び、農山漁村地域の活性化が欠かせません。定住化の促進、地域産業の振興に向けた規制緩和に取り組み、民間活力を呼び込むなど環境づくりをさらに進めます。

## 中小企業に細やかな支援を

**Q** 福岡市は全国でも最も元気な都市と評価されています。しかし、地場中小企業を取り巻く環境は大変、厳しいものがあります。福岡市はこうした状況を踏まえ、中小企業・小規模事業者振興推進プランを策定しています。創業支援は地域に雇用を生む重要な施策であり、私も応援しています。しかし、地域で頑張っている商店街や既存の中小企業に細やかな支援が行き届いているとは言えません。今後、どう取り組んでいくのか。

**A** 福岡市の都市成長を考えた場合、市内企業の99%を占める中小企業が活躍出来る環境を整備することが欠かせません。変化する消費者ニーズに合わせたサービスや商品開発は不可欠です。こうしたチャレンジ精神を中小企業に波及させ、経済のグローバル化やイノベーションに対応できる柔軟さが求められます。都市の活力が地域全体に広がるようバックアップします。中小企業が新しい事業に果敢に挑戦する日本のモデル都市を目指したい。



その他議会質問の詳細については、福岡市議会ホームページをご覧ください。  
<http://www.city.fukuoka.lg.jp/gikai>



福岡市議会議員 川上 晋平

## 限定区 桜の見どころ のご紹介

桜の季節がやってきました。今回は「名島城址公園」の、雄大な「臥龍（がりゅう）桜」をご紹介します。思いのままに、臥龍桜は、幹が地面を這うように伸びている様子が龍に見えることから名付けられました。幅約12メートル、奥行き約13メートル、高さ10メートル以上に枝が広がり、目の高さで花を楽しめます。

同公園は名島城の本丸跡。市が地元の要望を受けて民有地を購入し、2012年4月に開園しました。公園整備によって臥龍桜が自由に見られるようになり、訪れる人が増えています。



## 東区見聞録

天皇家の荘園だった志賀島  
古賀 偉郎

志賀島が天皇家の荘園（しやうえん）（長講堂領）（ちやうこうどうりょう）になったのは建久二年（一一九一）、後白河院が四二ヶ年八九ヶ所に及ぶ莫大な荘園を長講堂に寄進した時点と思われる。長講堂とは後白河院の院御所である六条殿内に建立された持仏堂（じぶつどう）で、後白河院没後、宣陽院（せんやういん）、後深草天皇（ごふかくさてんのう）へと継承され、後深草院の系統（持明院統）の歴代天皇に引き継がれるも、応永二〇年（一四一三）に長講堂領は崩れ、志賀島は武家の争奪地と変容する。

荘園時代の状況は荘園であった島田家文書（京都大学所蔵）から垣間見ることが出来る。建久二年十月に、荘官島田氏によって現状報告がなされ、志賀島の荘園には文書によって以下の課役が賦されている。一、正月三ヶ日雑事として、御簾（みす）二間、御座（ござ）二枚、砂金五両（五〇匁）二、三月の法華八講会（ほっけはつこうえ）の費用として砂金三両（三〇匁）三、後白河院家御所の食事担当（毎月二十六日）四、後白河院家御所北門警備兵士として一年に三十人が志賀島に割り当てられた等、諸々記されている。延慶三年（一一三二）八月二十二日付で現地に采配する左衛門尉から荘官島田家宛書状で、年貢米（百石）を京に運ぶに際して普通は一石につき四斗が相場場のところ、三斗で運ぶように努力した

むね伝え、又、口径二尺の茶碗鉢は無理と思うが、何とか入手すると記す。鯉の塩辛、今は時期的に少量しか届けられぬが、明年参上の折には望み通りの量を持参する。根紫（紫の染料）は未だ手に入らないが引き続き努力する。志賀島の海人らの進物は恒例の通り送ったので、請取状（うけとりじょう）を願いたい等、海辺の荘園の生活を感じさせる記述がある。

応永十四年（一四一七）三月、前筑前守島田益直が提出した長講堂領目録案に、筑前国志賀島は「島田益直が何代も受継いでいるが知行地（ちぎょうち）ではなく、年貢米百石」とある。恐らく島田氏は長講堂領を管理する手当として、志賀島の知行権利を授かっていたのであろう。今日の勝馬に「荘官の田地を意味する「庄司田」の字名が存続しているところを見ると、勝馬村に水田が広がり、志賀島の年貢米百石は、この地域で収穫されていたと思われる。後の時代であるが、勝馬村の田数は十九町六反余、収穫高は二百五十五石余との記録（『宝暦十四年（一七六四）勝馬村田方名引帳（たかたなびきちやう）』）がある。これ等のことから推察して、この年貢米百石は島田氏の宛行扶持（あてがいぶち）と考えられる。先にも述べたが武家の荘園への濫妨（らんぼう）（掠奪）（りやくだつ）（行為）は建武四年（一一三二）頃から始まり、応永三十年の荘園崩壊をはさみ、小早川隆景が筑前国主となるまで一七四年に渡り志賀島は武家による領地争奪の時代が続き、慶長五年（一六〇〇）の黒田長政の筑前入国で安穏な時代を迎えたことになる。

# 今後の東区のまちづくり



2017年  
7月2日開催

福岡市初開催の  
スタンダードディスタンスのトライアスロン

都市と自然が絶妙に融合した  
九州の玄関口「福岡」。

その中でも、悠久の歴史を紡ぐ志賀島を主とした福岡市東区を舞台とする福岡トライアスロン2017は、最大の開催意義に「地域振興」を掲げて発進します。  
この大会は、「産・学・官」と地域社会とを結びつける大きな役割を担います。地域社会に受け入れられ、継続的に発展し続けることでトライアスロンの振興に寄与していくことを目指します。

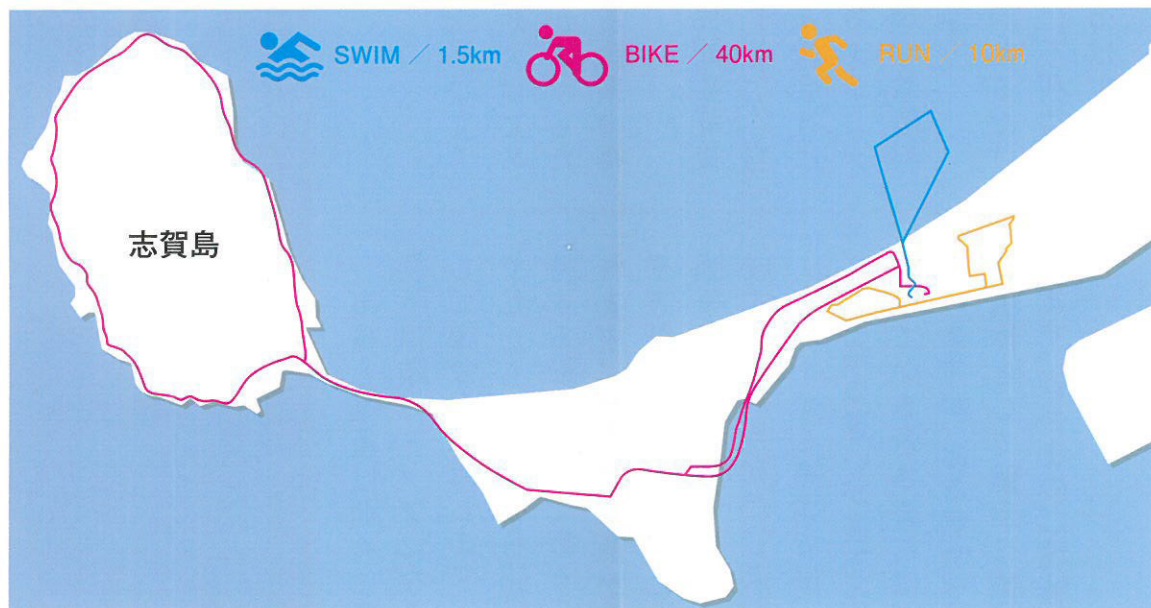


## 川上しんぺいプロフィール

|       |                     |
|-------|---------------------|
| 昭和46年 | 福岡市に生まれる            |
| 平成 2年 | 福岡県立筑紫丘高校卒業         |
| 平成 6年 | 中村調理師専門学校卒業         |
| 平成 9年 | 株式会社正興電機製作所入社       |
| 平成11年 | 福岡市議会議員選挙初当選        |
| 平成15年 | 福岡市議会議員選挙2期目当選      |
| 平成19年 | 福岡市議会議員選挙3期目当選      |
| 平成23年 | 福岡市議会議員選挙4期目当選      |
| 平成27年 | 福岡市議会議員選挙5期目当選現在に至る |

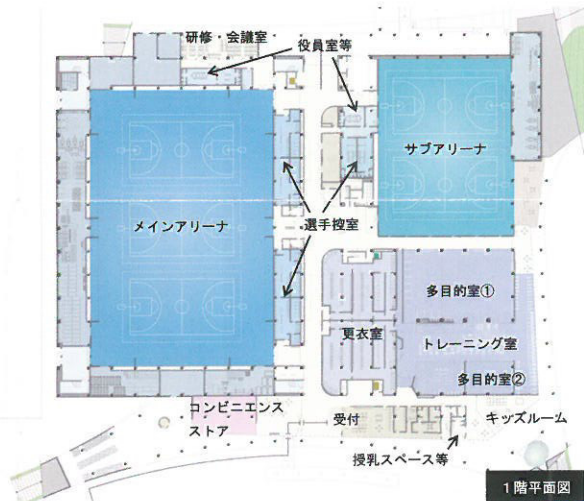
## 現在の主な役職と活動

- ・第3委員会 委員 (主管:経済観光文化局・港湾局・農林水産局)
- ・交通対策特別委員会 委員
- ・議会改革調査特別委員会 委員長
- ・文化・スポーツ振興推進協議会 委員
- ・自由民主党福岡市議団 副会長
- ・自由民主党福岡県支部連合会組織委員会 副委員長
- ・自由民主党福岡県連青年局 次長
- ・アーバンユースネット 福岡代表監事
- ・福岡市総合計画審議会 委員
- ・福岡市農林業振興審議会 委員
- ・福岡市水産業振興審議会 委員
- ・博多湾水産資源影響調査審議会 委員
- ・福岡市沿岸漁業振興議員連盟 議員
- ・アビスパ福岡支援議員連盟事務局 事務局長
- ・福岡私立幼稚園連盟 振興議員
- ・福岡市保育推進議員連盟 議員
- ・福岡都市圏研究会 会長
- ・福岡那の津ライオンズクラブ 会員
- ・福岡青年会議所シニアクラブ 会員
- ・福岡市東消防団西戸崎分団 班長
- ・若宮商店会 相談役
- ・中村専修学園 評議員
- ・和白病院 評議員
- ・福岡市鍼灸師会 顧問



## 平成30年12月 福岡市総合体育館が完成

東区香椎照葉で福岡市民のスポーツの新拠点福岡市総合体育館の建設がスタートしました。この福岡市総合体育館は、現在の市民体育館、九電記念体育館の後継施設として、市民のスポーツ拠点となる新たな体育館になります。



## 買い物困難者、福岡市支援へ 東区香住丘校区で事業開始

福岡市は日常の買い物が困難な高齢者の支援を東区香住丘校区で始めました。地元ボランティアが自宅から校区内の量販店までドアツードアで送迎し、荷物の持ち運びを手伝います。

地元住民らでつくる香住丘校区買い物等支援自動車運行協議会が実施。市のモデル事業として選ばれました。対象は事前アンケートで募った同校区の高齢者70人。運賃は無料で、月、水、金曜日の午前と午後、10人乗りのワゴン車が利用者宅を回ります。市が市社会福祉協議会を通じてワゴン車を貸し出し、ガソリン代は同協議会が実費負担します。

市高齢社会政策課によると、同校区の65歳以上の割合は20.6%で市内平均とほぼ同じだが、高齢者数は3655人と市内で5番目に多い。同課は「実施状況を見ながら、ほかの校区への順次拡大も検討したい」と話しています。



## マリンワールド海の中道 グランドオープン

マリンワールド海の中道は、全館リニューアル工事のため休館いたしておりますが、4月12日(水)にグランドオープンいたします。  
新しいマリンワールドは『いつも新しい私になれる水族館』をコンセプトに、①展示の進化 ②空間演出の強化 ③施設快適性の向上により、海をより身近に感じられるリゾート施設へと生まれ変わります。



## かしいかえん 2017年3月リニューアルオープン

『遊び』と『癒し』が一体になった「まちのオアシス」へ生まれ変わります。

昭和31年4月、花と緑の豊かな“地域の憩いの場”として誕生した「かしいかえん」は、これまで小さなお子様連れのご家族をメインターゲットとし、多彩なイベントの開催や遊具の新設等の歴史を重ねながら、約60年間福岡市唯一の遊園地として多くの皆様に親しまれてきました。

今回、少子高齢化の進展などの環境の変化に対応し、幅広い年齢層の方々にとっても、憩いの空間となるような『遊び』と『癒し』が一体となった「まちのオアシス」へと生まれ変わります。

